

視点		課題	理想	課題と理想を埋める対策・取組案
建設業	成長期	経験のある技能労働者が次々と定年を迎え退職していく。若者層の入職者が業界全体で少ない。入職しても続かない。結果として技能労働者不足が課題。	経験値の高い技能労働者がいるうちに、若者に技術を伝承されていく	建設業のイメージアップが必要。さらに中小企業では技術・技能を教える人間的な余裕がなく、習得する前に辞めてしまう。一定の研修期間を担保できる期間。もしくは講師の派遣などを整備する
	成熟期			
建設業	衰退期	家族経営の事業所が多く、身内が跡取りしなければ、事業が継承されない。建て替えやメンテナンスを必要としている顧客がいるのに廃業してしまう。	独立したい、起業したいという挑戦者と、廃業を予定している事業者のマッチングで、顧客の引継ぎができる。	
	創業期			
建設業	衰退期	「同上」の理由で、技術者・技能者の再就職先を探さなければならない。特に高齢者の再就職先が見つからない。	高齢の技術者・技能者が活躍できる現場作業だけでなく新人教育や技術指導など	
建設業	成長期	住宅産業は大手資本によるシェア拡大が著しく、地域の工務店、建設会社の受注が困難になっている	地域に根付いた工務店、建設会社が技術力向上もさることながら、SDGsなどの取り組みを積極的にに行い、顧客から選ばれる存在になる	
	成熟期			
建設業	成長期	IT化やロボットなどの導入ができない、業務の効率化などが進まない中小企業が多い。	業務の一部でもITを導入することで、事業の効率化が図られ、従業員や管理職の業務が軽減される	
	成熟期			
建設業	創業期	世田谷区内で作業場や加工場を確保することは、難しい。置場や駐車場ですら近隣から苦情が寄せられる。	準工業地域や一定の条件が整う住宅地で、軽微な作業場や置場などが確保できる。	
	成長期			
建設業	成長期	労働者の労働時間が長い。8時～17時の現場作業。現場までの移動、準備や片付け。監督などは事務作業。土曜日、祝日の現場作業	現場の土日祝の閉所準備片づけを含む8時間労働 週休2日制 日給月給⇒月給制・有給休暇	業界を挙げての土日祝の閉所 まずは公共工事から
	成熟期			
中小規模企業	創業期/導入期	IT技術の発展(特にクラウドやAIなど)で、起業ハードルが格段に下がっているにも関わらず、女性起業家・事業家が増えず、学生の中でもその発想すら薄い。性別に対する偏見や無意識レベルのバリアーによって、若手女性の可能性を狭めている。	起業や経営のリテラシー教育、テクノロジー活用による時間や場所に捉われない働き方・選択肢の提示、多様な生き方や働き方を体現するロールモデルの存在・コミュニティなどが日常生活のあらゆる所に存在し、アクセスできる。それにより、女性=仕事も生活もサポートする側の存在のみでない、主体的で人生のリーダーシップを取れる事が普通だと思う状態。	世田谷女性起業塾的な教育やコミュニティ。小学校からはじめる(ジェンダーバイアスは小学校低学年から生じる)起業経営教育。世田谷に住む女性経営者(沢山居るのでは…)の組織化・コミュニティ化、情報交換や教育の場。上記の事業継承にしても、アトツギが女性になる選択肢が普通になる様な仕組みや制度があっても良いのではないかな。
教育・学習支援	時期は不明	3つのD「デジタル・デザイン・ダイバーシティ」が、これからの社会を生き抜くキーである中、デザインを学ぶ機会は開かれておらず、日本社会全体でデザインリテラシーが低いままだ。	ヘルシンキにある世界最高の図書館とも言われる「oodi」は、市民参加によって生み出された空間で、市民創発によるものづくり・ことづくりがこの図書館内で行う事ができる(ファブラボ的な機能や音楽CDが作れるようなレコーディングスタジオなど)。「oodi」のような複合情報施設を中心に、世田谷のデザイナー・クリエイターが区民と何かを企む機会創出が頻繁に起こる。	高校授業に情報(デジタル)の授業があると同時に、デザイン授業が独自にあっている。ちなみにデザイン授業は、社会や経済のリレーションを生み出す為の考え方と手法なので、美術芸術とはちがう。世田谷区在住の多くのデザイナー・クリエイターが「オープンスタジオ」を開催する。
生活関連産業(子育て世代向け)		子育てが1家庭1家庭に委ねられすぎていて、まち全体で育てるといった実感が薄い。近隣のお年寄りと共に子供の成長を見守る、将来母になるであろう女子学生が子育てを垣間見る、パパ同士が子供を連れて集まれる機会や場があるなど、子供を中心に多世代が集う・混ざる社会にならない限り、子育ての「孤独感」は無くならない。	一人の子供に、肉親や親戚以外のサポーター(近隣高齢者・代理ママ・代理パパ・子供よりちょっと上のメンターの存在)が居る子育て環境。子供の親は、状況に応じて連絡相談できる。	近所に肉親や親戚以外のサポーターが一人いるだけでも、状況は大きく違う。信頼関係が生まれるような交流機会を通じて、個々に仲良くなれるきっかけが多くあると良い。
道路環境		狭い生活道路で、クルマ・自転車・車椅子・新たなモビリティなどが入り乱れ、結果、歩行者が弱い立場になっている問題。	とある夏の1日、国道246が、こんな状態になる >>> https://www.ideko.com/project/nyc-dot-summer-streets	道路を公園化するという意識で、道路実験(期間限定の道路公園化→期間を増やす・伸ばす→最終的に歩行者優先になっていく)を積極的にに行う。NYマンハッタンで毎年行われている「Summer Street」や、丸の内「Marunouchi Street Park」を実施し、人々の道路活用の意識変容も狙う。
ゴミ処理環境		生ごみを焼却処理する以外に、環境負担の少ない方法はないのか?ドイツではコンポストで収集し、堆肥化・バイオガス化している事例がある。	ドイツの「生ごみ箱」がお手本 >>> https://elemnist.com/article/655	生ごみが焼却処理されることで、いかに非効率で環境負担があるかの理解周知。コンポストの設置実験。捨て方マナーやルールの設定。生ごみから再生される堆肥やバイオガスが与える社会への影響の伝達。